Vol.3
R5.8.1
発行

加美町
再生可能エネルギーかわら版

編集・発行　加美町役場　地球温暖化対策室
宮城県加美郡加美町字西田三番５番地　TEL：0229-63-8008

町民座談会に続き、６月16日、「再生可能エネルギーに関するシンポジウム」を開催したところ、135名にご参加いただき感謝申し上げます。

アンケート（複数回答可）の中で、風力発電事業に関する考えを尋ねたところ、回答は次のとおりでした。

1. 「脱炭素社会を実現するために、風力を含む再生可能エネルギーの導入は推進すべき」が60%
2. 「風力発電に関する不安や心配はしていない」が47%
3. 「森林伐採による土砂災害が心配」が30%

青森県中泊町の濱舘町長等の説明に対しては、77%が、「非常に分かりやすかった」、「まあ分かりやすかった」と回答。66%が、「不安は解消された」、「やや解消された」と答えており、風力発電事業に対し理解を深める機会になったものと思われます。

一方、座談会のアンケートには、「内密に企業と契約を交わしたのは問題だ」といった事実誤認の意見も見受けられるため、改めて次ページで経緯をお伝えさせていただきます。

「人から聞いた話ではなく、自分で知る努力をする人が増えると、もっとよい町になる気がします」とのご意見もありました。日々様々な情報が飛び交う社会にあって、私たちには正しい情報を見極める力と冷静さが求められています。

昨年７月の大雨では、加美町でも住宅の床上浸水、道路の陥没、法面崩落など大きな被害を受けました。今夏も、全国的に大雨による被害が頻発しています。また、6月の北日本の気温が統計開始以降１番の高温となるなど、真夏日や猛暑日が増え、熱中症のリスクが高まっています。私たちの生活を守るため、一人一人が地球温暖化について考える必要があります。

また、人口が減少し、税収や国からの地方交付税が減っていく中、クリーンで無限な風をエネルギー源とする風車が、貴重な財源、雇用や仕事を生み出すことで地域が潤うのも事実です。住民の理解を得て、暮らしと風力発電が共存できることが望ましいと考えています。

加美町長　猪股　洋文

JRE宮城加美町ウインドファームの説明等の経緯

再生可能エネルギーの導入に向けては、地域住民への十分な説明・対話が必要です。ここでは、現在建設中のＪＲＥ宮城加美町ウインドファームのこれまでの説明会等の経緯について説明します。

JRE宮城加美町ウインドファーム

年月	対象	内容
H27. 9	漆沢	説明会
H28.11	漆沢	説明会
H29. 8	全域	※方法書説明会
H29.10	漆沢	説明会
H30. 8	漆沢	意見交換
R 1 . 8	全域	※準備書説明会
R 1 .10	漆沢	説明会
R 2 . 2	生産組合	説明会
R 2 . 3	酪農組合	説明会
R 2 . 5	近隣住民	資料配布
R 2 .10	東鹿原	説明会
R 2 .11	近隣住民	資料配布
R 3 . 4	近隣住民	資料配布
R 3 .11	近隣住民	資料配布
R 4 . 1	漆沢	説明会
R 4 . 6	工事周辺地区	説明会
R 4 . 6	漆沢	説明会
R 4 . 6	全域	説明会
R 4 . 7	生産組合	説明会
R 4 .10	住民	現場見学
R 4 .11	地区婦人会	現場見学
R 5 . 1	小野田地区区長会	説明会
合　　計		22回

左の表のようにジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社（ＪＲＥ）では平成27年9月以降、22回の説明会（コロナの期間中は資料配布）をおこなっており、住民理解の醸成に努めています。

説明会の様子

町有地の貸付けについては、議会全員協議会で町議会議員に２度説明した上で、契約を締結しました。

また、かわら版VoL.1で紹介しました通り、令和５年５月２日にはＪＲＥ㈱の竹内社長と東北電力㈱の佐々木常務が来庁し、町民の不安の解消を目的として、協定書を締結しました。

（左から）東北電力㈱佐々木常務、
JRE㈱竹内社長、猪股町長

事業者による地域貢献策の事例

再生可能エネルギーの導入においては、加美町の地域特性を生かして「地域との共生」の視点に立った取組みの推進が必要になります。

風力発電に関する町民座談会において、各事業者から他地域での地域貢献策について説明がありましたので紹介します。

ジャパン・リニューアブル・エナジー㈱

- 地域イベントや祭礼への参加・協賛
- 地域住民向けの輸送や据付作業などの見学会開催
- 小学校、中学校からの見学受入、出張授業
- 企業版ふるさと納税を活用した地域創生事業への寄付
- 自治体の獣害対策事業へ寄付
- 植林事業への寄付、植林活動の参加　等

見学会・出張授業・ワークショップ

地域イベントへの参加

㈱グリーンパワーインベストメント

グリーンパワー金城太陽光発電所（島根県浜田市）

老朽化した金城中学校の駐輪場を改修

<林業振興>

・市の「木育推進事業」の一環で、4つの中学校で浜田市産材を活用した校舎改修と木育を実施

・市が推進する循環型林業の実現とともに、地域の産業について学ぶ機会をつくり、ふるさと郷育への寄与も目指す

ウィンドファームつがる（青森県つがる市）

水耕栽培施設の様子

<農業振興>

・つがる市の名産品の1つでもあるメロンの通年栽培を目指した水耕栽培実証試験事業に活用

・特産品の生産基盤強化やブランド推進とともに、農業生産の過程で生じる資源を活用した持続可能な農業を目指す

大洞山ウィンドファーム（高知県大月町）

<観光振興・教育振興>

・町役場、観光協会、道の駅と連携し、風力発電所施設内を見学するツアーやイベントの企画・運営、土産品の開発などの取組みを実施

・風車の観光資源化による関係人口の増加や域内経済循環の仕組みを作ることを目指す

・近隣地域の学校関係者向けの地域や環境に関する出前授業の実施

各事業地等での教育連携

<教育振興>

・地域の教育機関等とエネルギー教育やキャリア教育の観点で連携し、出前授業や発電所の見学などを実施

・地域の資源や地元にある産業について、発電所や再エネを通して、学生の皆さんに知っていただくための機会を提供

日本風力エネルギー㈱

稼働している地域の住民の声

町ではこれまで、風力発電施設が立地している自治体の現状を確認するため、石巻市、青森県つがる市、青森県中泊町を視察し、地元住民と意見交換を行いました。

石巻市　近隣の自治会役員　（2021年7月）

・何かあれば会長に話すよう伝えているが、苦情や困っているという声はない。
・一部の住宅で風が強いときにグググと音が聞こえるが、眠れないなどということはない。
・近くに牧場があるが、家畜への影響はない。

青森県つがる市　区長、農業生産者　（2022年11月）

・風車の下でメロンの作業をしているが苦情はない。区で反対の声は全くない。
・農作業をしていても全く気にならず、毎日気持ちよく仕事している。
・田舎だけど風車はいい味が出ていて、建ててくれたことにありがとうと思っている。

青森県中泊町　部分林組合連合会会長　（2022年11月）

・五所川原市で風力が稼働していて苦情がないのを知っていたため、当町で反対はなかった。
・離れた場所でもたまに音がするが、家の中では問題ない。
・風が強いと風の音がするので、風車の音は聞こえない。